

都道府県名	徳島県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	池田町立池田小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	23
児童数	69	56	75	66	73	65	5	409	

研究の概要

1. 研究主題

自ら学び、確かな学力を身につける児童の育成
 — 児童一人ひとりの基礎・基本の定着から学ぶ意欲を育て、学力の向上を図る —

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

学年	1年生・2年生・3年生・4年生・5年生・6年生		
教科	算数		
選択理由	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの理解度に差が出やすい教科であるため。 ・基礎的・基本的な知識や技能の定着が図りやすい。 ・学力の数値化が図れ、学力把握をしやすい。 		
指導体制	1年・2年 3年・4年・5年・6年	T・T指導 T・T指導と少人数指導と課題選択 別指導の併用	

(2) 年次ごとの計画

平成十四年度

テーマ
 「自ら基礎・基本の定着を図り、学ぶ意欲を育てる授業の創造」
 テーマへの仮説

- ・基礎・基本の定着度が数値化され、はっきりと分かる算数科において実施すると、学力をつける手法の手がかりがつかめると考える。
- ・まずはT・Tによる校内の指導体制を確率し、きめ細かな指導をすることで算数科における基礎・基本を確実に定着させることができると考える。
- ・自ら学ぶ意欲を喚起するには、できる喜びを与える学習指導方法を創意工夫することだと考える。
- ・楽しく、分かる授業を展開するために、教材の開発に努めなければならない。
- ・基礎・基本を十分身につけている子どもには、発展的な学習に取り組ませることで、子ども一人ひとりの豊かな自己実現がはかれるものとする。
- ・教科学習を生かした「総合的な学習の時間」を実践することによって、体験を通して、新しい課題を見つけ、自ら考え、判断し、試してみたり、表現したりする資質や能力が身につくものとする。
- ・自分を大切に、相手を思いやる人権教育を充実させることで、生きる力を支える豊かな感性が育つものとする。
- ・教師の学習指導の在り方についての考え方や子どもたちの学習活動に対する考え方の転換を図ることによって、授業の質的な改善を進めることができるものとする。
- ・新しい学力観にたった評価の観点、評価規準を設定して、学習指導の過程や成果を把握し、それを次の学習指導の支援に生かすことによって、子ども一人ひとりのよさや可能性をさらに伸ばすことができる。
- ・子どもの自己評価や相互評価の力を高めることによって、子ども自らの学習意欲の向上に努めることができると考える。

研究内容・方法

- ・学力観についての校内意志統一
- ・教科を算数科にしぼり、1年から6年までのT・Tによる学習指導の試行
- ・T・T・少人数・習熟度別の理論研究と他校参観
- ・効果的な指導・支援のための教材開発
- ・T・T指導における発展的学習の在り方
- ・子どもを生かし、常時使える評価規準とその方法について
- ・3年・4年・5年による少人数学級の先行的取り組み
- ・T・T指導の研究授業と「学力向上についての総合的示唆」としての講演会実施
- ・各学年、「総合的な学習の時間」をどのように実施しているかを報告するプレゼン大会の実施
- ・人権教育の年間計画作成と参観授業の実施

テーマ

「自ら学び、確かな学力を身につける児童の育成」
 児童一人ひとりの基礎・基本の定着から学ぶ意欲を育て、
 学力の向上を図る

テーマへの仮説

- ・算数科の基礎・基本を明らかにすることによって、教師の指導・支援の在り方が明確になると考える。
- ・自ら学ぶ意欲を喚起するためには、子どもたちの興味・関心や能力に応じて主体的に学習活動を展開できるような授業実践を行うことだと考える。
- ・個の能力を最大限に発揮するために、少人数指導を含むT・T指導、課題選択別学習の導入を図るべきだと考える
- ・子ども一人ひとりの学習活動が成り立つように、またその興味や関心、思考などが広がるようにする観点から、教材の開発や複数の教材を準備する必要がある。
- ・教師自身が従来の学習指導観の転換を図ることによって、子どもの豊かな自己実現が図れるものと考え。
- ・放課後の算数教室を設置することにより、子どもの学びの実現につながるものと考え。
- ・新しい学力観にたった評価の観点・評価規準の体系化を行い、それを活用するとともに、子ども自身の自己評価の在り方を検討することによって、子ども一人ひとりのよさや可能性が最大限に発揮できる。
- ・子どもと教師、子ども相互の人間関係を豊かにして、お互いのよさに共感しあうことができるような人権教育を充実させることで、生きる力を支える豊かな感性を育てていきたい。
- ・朝の活動や家庭学習の充実を図ることによって、学ぶ習慣を身につけることができる。
- ・定期的な学力テストを実施し、本校の課題と研究の成果を明らかにしていきその改善に努めたい。

研究内容・方法

- ・算数科の基礎・基本の洗い出し
- ・算数科の授業実践
- ・T・T指導に加えて、少人数指導を含むT・T指導、課題選択別学習の導入
- ・効果的な指導・支援のための教材開発、並びに複数教材の工夫・活用
- ・新しい学力観にたった学習指導・支援の在り方の研究・授業実践
- ・基礎・基本の徹底をはかるため、放課後の算数教室の設置
- ・子どもを生かし、常時使える評価規準作成と活用
- ・朝の活動、家庭学習の見直しと実践
- ・学力把握のための学力テストの実施

変更理由

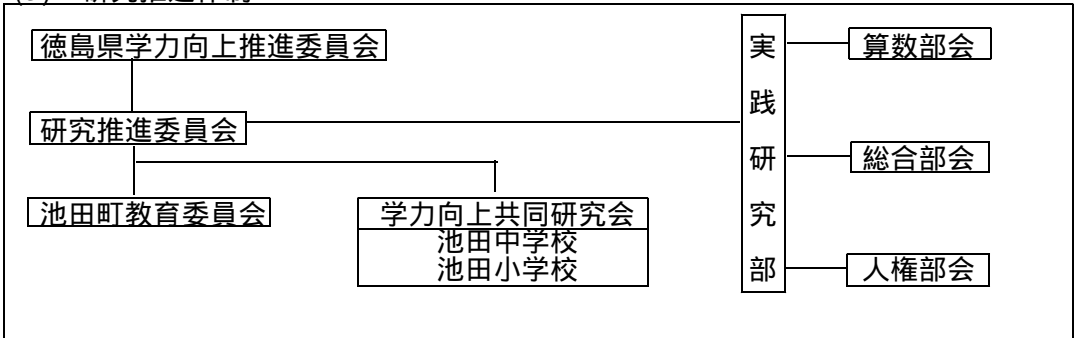
- ・時間数不足のために、算数科だけに絞った。
- ・本校では、習熟度別より課題選択別学習がより効果が上がると考え、習熟度別学習を除いた。

テーマ
 自ら学び「確かな学力」を身につける児童の育成
 —— 児童一人ひとりの基礎・基本の定着から学ぶ意欲を育て、学力の向上を図る

テーマへの仮説
 ・15年度の取り組み結果から、T・T指導や少人数指導・課題選択別学習をより積極的に取り入れ、朝の活動・ドリル学習などを継続して進めていくことが、基礎・基本を定着させることにつながっていくと考える。
 ・ヒントカードやステッププリント、友だちとの話し合い等を取り入れるなど指導方法の工夫を研究していくことが、確かな学力を身につけさせることにつながっていくと考える。

研究内容・方法
 ・指導内容や指導方法についての研修をより深める。
 ・T・T指導や少人数指導・課題選択別学習できめ細かい指導を徹底し、個別指導によって充実した授業を展開する。
 ・朝の活動やドリル学習を通して、学習習慣、基礎・基本の確実な定着を図る。
 ・教材・教具・補充プリントなどの研究・作成に努力する。
 ・情報機器等を活用し、より分かりやすい教材の開発に努力する。
 ・学力テストを引き続き実施し、15年度のデータと比較検討し、全体的な傾向を知ったり、不十分な点の補充を行ったりする。
 ・自ら基礎・基本を獲得し、「確かな学力」を備えた子どもの育成をめざして研究実践してきた成果を発表する。
 ・「学力向上フロンティア事業」のまとめを行う。

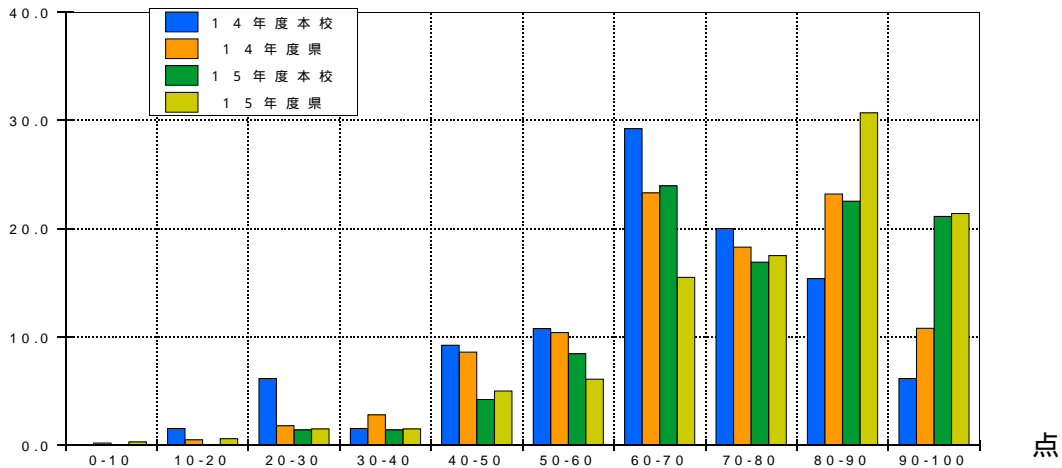
(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

% 5年算数 学力テストの正答率別にみた児童の分布



・本校5年生の一斉学力テストの結果をグラフに表し、平成14年度と平成15年度の算数を比べたところ、15年度の方が良い結果となって表れている。

15年度	0～20	0
	20～30	14年度より減少
	40～80	"
	80～100	14年度より増加

14年度より学力向上フロンティア事業を実施し、少人数指導やT・T指導・課題選択別学習などを取り入れることにより、低学力の子どもたちがグラフ上で右寄りとなり、また、80以下の子どもたちも右よりの傾向を表している。80以上の子どもも14年度より多くなり、学力の向上が見られると考える。

・ドリル学習においては、百マス計算を続けることにより、制限時間の中で問題を仕上げる子どもが増え、時間短縮を図る子どもも多数増えてきた。意欲的に取り組む子どもが増えてきた。

・少人数指導やT・T指導を行うことにより、発表が多くなったり、質問が多くなったりしてきた。

2. 今後の課題

・5年生の学力テストから徳島県の平均より本校の学力が全体的に低いということや基礎学力定着に意識が傾き、発展的な指導が十分でなかったことが分かったので、教材や指導法の研究を深める。

・保護者への啓発が不十分だったので、学年だより等を通して啓発を進めていく。

学力等把握のための学校としての取組

・全校一斉学力テスト
 調査目的・・・子どもたちの学力定着のデータをとるため
 実施内容・・・算数科
 時期・・・1学期

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

・公開授業を14年度は1学級・15年度は2学級行った。
 ・本年度も公開授業を行う予定。
 ・研究のまとめを作成する予定。



次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無